

農業担い手メールマガジン（第121号）

インデックス

現場の皆さんへ ~ 将来を見据える農業経営者の創造力と先見性 ~
事業活用のポイント ~ 広域連携アグリビジネスモデル支援事業 ~
食料自給率向上に寄与する現場の優れた取組を募集しています
~ フード アクション ニッポン アワード2009候補を募集中! ~
お知らせ ~ 日照不足及び低温等に関する対応について ~

現場の皆さんへ ~ 将来を見据える農業経営者の創造力と先見性 ~

皆さん、相変わらずの蒸し暑さの中、いかがお過ごしでしょうか。
今回は、農業経営をいま一步成長させるために必要な、経営者の「創造力」や「先見性」について、お話ししてみようと思います。

皆さんの多くは、食べ物として人々の口に直接入るものを生産し、販売していらっしゃると思いますが、その生産物が、一体誰の口に入るのか、どんな家族構成のどんな食卓で、どういった調理をされて食べられているのかなど、実際に消費者である誰かの口に入るときのことを思い巡らしてみたいことはありますでしょうか。

最近、「顔の見える関係」が、農業と消費者を結ぶキーワードとしてしばしば取り上げられますが、その場合でも、単に写真や名前を農産物に付ければよいというものではなく、消費者が食べる姿を想像しながら、包装する個数やパッケージ、表示する情報を工夫するなどして、単なる“生産物”から消費者に受け入れられる“商品”を創り上げる「創造力」が、前提としてとても重要になってきます。

例えば、お米に加えて少量でも雑穀などを作っている場合には、雑穀の小袋を加えて、忙しい若年世代向けには「お手軽十穀米キット」、高齢世代向けには「昔懐かしの 米」などという売り方があるかもしれません。また、野菜についても、コンビニなどで単身者が買う場合には、ドレッシングなども付いたごく少量のサラダなどが売られるでしょうし、都会の核家族向けにスーパーで売られる場合には、様々なカット野菜を組み合わせた「野菜炒めセット」や「鍋セット」などいろいろなパッケージ販売が考えられます。

さらに、特定の料理を想定して、気の利いた器や取り合わせの良いお酒との“コラボ商品”などというの也被考えられる発想ですし、贈答用ともなれば、内容量や価格設定、包装にも全く別のコンセプトが必要となるでしょう。

つまり、同じ農産物であっても、食べる人やシチュエーションが違えば、そこに求められる「商品」の形はすべて違ってくるのです。

同時に、今の消費動向を見据えながら、5年後、10年後にはどんな農産物や商品が

売れているのか考えてみることも重要です。そのためには、都会の消費者がいったいどんなものに興味を持ち、何を買っているのか、デパートやスーパー等の消費の現場に出向いて、「売れ筋商品」に触れ、“なぜ”その商品が売れているのかを、“ご自分の目で”チェックする習慣が必要になってくるかもしれません。

皆さんが豊かな発想で、消費者が生産物を口にする状況に思いを馳せながら、様々なことにチャレンジしていくことは、皆さんの農業経営の将来にとって必ずやプラスになることと思います。

われわれ農林水産省は、農業経営者の皆さんの「創造力」や「先見性」が、躊躇なく発揮されるような経営環境を速やかに整備していかなくてはならないと考えています。

ご意見・ご質問は下記へお願いいたします

<https://www.contact.maff.go.jp/maff/form/7b27.html>

事業活用のポイント ～ 広域連携アグリビジネスモデル支援事業～

「広域連携アグリビジネスモデル支援事業」は、都道府県の区域を越えて行われる広域的なアグリビジネスの取組を支援するため、生産者（農業生産法人等）同士、または生産者と実需者（食品産業等）が連携する場合に必要な機械・施設等の整備について国が直接支援するものです。

例えば、A県で野菜を生産する農業法人が、新たにB県で生鮮野菜や野菜の加工品等の卸売・販売を営む実需者と連携し、付加価値を高めて販売を行うために必要な「野菜加工施設（農畜産物処理加工施設）」を整備する場合などに助成が受けられます。

本事業を実施するための主な要件は次のとおりです。

事業内容：都道府県の区域を越えて、他県の生産者や実需者と連携(出資や取引契約等)関係にあること

実施主体：農業法人（認定農業者であること）等

補助率：事業費の1/2（沖縄県は2/3）以内等

事業の詳しい内容や応募書類の作成について不明な点がございましたら、農林水産省経営局構造改善課（TEL：03-3501-3768）又は最寄りの地方農政局までお気軽にお問い合わせください。

本事業は公募対象事業ですので事業を実施するためには、平成21年7月27日（月）～9月14日（月）（必着）の公募期間内に、直接、農林水産本省に応募していただく必要があります。その後、公募選定審査委員会において審査を行い、補助金の交付候補者を決定します。

なお、今回が今年度最後の公募となりますのでご注意ください。

「広域連携アグリビジネスモデル支援事業」の詳細はこちら

食料自給率向上に寄与する現場の優れた取組を募集しています

～フード アクション ニッポン アワード2009候補を募集中！～

「フード アクション ニッポン」は、日本の食料自給率の向上に向けて、1人1人が出来ることから行動していく国民運動です。この運動の一環として、今年度から「フード アクション ニッポン アワード」を行っています。

本アワードは、食料自給率向上に寄与する事業者・団体等の取組を一般から広く募集し、優れた取組を表彰することにより、食料自給率向上に向けた活動を広く社会に浸透させ、私たちや未来の子供たちが安心しておいしく食べていける社会の実現を目指すものです。

受賞した取組につきましては、「フード アクション ニッポン」の今後の活動の中で広く紹介して参ります。また、受賞事業者が生産する商品などにアワードマーク（下記URL参照）を使用することができます。担い手の皆様からの幅広いご応募をお待ちしております。

なお、締め切りは8月21日（金）までとなっておりますが、事前に応募する旨ご連絡いただければ受付が可能な場合もございますのでご相談ください。応募要項・申請書類につきましては、下記URLをご覧ください。

< 問い合わせ先 >

FOOD ACTION NIPPONアワード2009 実行委員会事務局 TEL：03-5537-1545

フード アクション ニッポン アワード2009の詳細はこちら

<http://syokuryo.jp/news-award/2009/07/post.html>

お知らせ

～日照不足及び低温等に関する対応について～

7月以降、全国的に日照不足や低温、大雨等が発生しています。農林水産省では、これらによって農作物等に被害が生じた場合に備えるため、

- (1) 農業共済団体等に対して、共済金の支払や仮渡しが年内に行えるよう準備の指示や指導
- (2) 関係金融機関による資金の円滑な融通や既に貸し付けられている貸付金の償還猶予等の措置が適切に講じられるようにするとともに、被害が確定した際には、相談窓口を開設し、現場の実情をしっかりと受け止めて、丁寧な説明・対応が行われるよう、関係金融機関に対する準備の依頼

を行いました。

担い手の皆様におかれましても、適切な施肥・防除の実施や排水対策、水稻における深水かんがいなどを実施し、農作物等の被害軽減に努められますよう、お願い申し上げます。

平成21年7月以降の全国的な日照不足及び低温等への対応について

<http://www.maff.go.jp/j/press/keiei/saigai/090805.html>

日照不足、低温及び大雨に対する農作物の技術指導について

<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sien/090728.html>

編集後記

最近の大雨や台風9号、さらには静岡地震で被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。

今年は、梅雨明けが記録的に遅れた地域が多く、東北では梅雨明けの発表を見送ったとのこと。今後も、全国的に低温や日照不足による農作物への悪影響が懸念されていますので、作物管理には十分ご注意ください。

お盆を過ぎると、そろそろ秋の虫の音も聞こえてくる時期になります。収穫の準備などでお忙しい日々が続くと思いますが、お体には十分お気をつけ下さい。（S）

電子出版：農業担い手メールマガジン

発行日：毎月2回発行

発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：鈴木

農林水産省担い手ホームページもご覧ください！

～担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載！！～

<http://www.maff.go.jp/j/ninaite/index.html>

このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから

http://www.maff.go.jp/j/ninaite/n_mailmaga/index.html

このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>